

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2024年7月9日

【四半期会計期間】 第25期第2四半期(自 2024年3月1日 至 2024年5月31日)

【会社名】 ジャパニース株式会社

【英訳名】 J a p a n i a c e C o . , L t d .

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長兼社長 西川 三郎

【本店の所在の場所】 横浜市西区みなとみらい二丁目2番1号横浜ランドマークタワー18F

【電話番号】 045-670-7240(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 管理本部長 西川 明宏

【最寄りの連絡場所】 横浜市西区みなとみらい二丁目2番1号横浜ランドマークタワー18F

【電話番号】 045-670-7240(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 管理本部長 西川 明宏

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第24期 第2四半期 累計期間	第25期 第2四半期 累計期間	第24期
会計期間		自 2022年12月1日 至 2023年5月31日	自 2023年12月1日 至 2024年5月31日	自 2022年12月1日 至 2023年11月30日
売上高	(千円)	4,734,778	5,455,397	9,885,472
経常利益	(千円)	415,609	310,851	873,485
四半期(当期)純利益	(千円)	269,890	203,070	616,113
持分法を適用した場合の投資利益	(千円)	-	-	-
資本金	(千円)	20,000	21,689	20,000
発行済株式総数	(株)	4,000,000	4,006,600	4,000,000
純資産額	(千円)	2,499,607	2,764,133	2,857,606
総資産額	(千円)	4,044,711	4,521,021	4,585,462
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	68.16	50.87	155.52
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	66.83	50.20	152.55
1株当たり配当額	(円)	-	47.00	77.00
自己資本比率	(%)	61.8	61.1	62.3
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	237,988	217,823	566,883
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	10,132	10,130	45,527
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	218,161	296,392	206,673
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	2,371,251	2,587,539	2,676,239

回次		第24期 第2四半期 会計期間	第25期 第2四半期 会計期間
会計期間		自 2023年3月1日 至 2023年5月31日	自 2024年3月1日 至 2024年5月31日
1株当たり四半期純利益	(円)	33.09	23.54

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成していないため、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 当社は関連会社を有していないため、持分法を適用した場合の投資利益については記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、社会経済活動の正常化を背景として、個人消費や雇用情勢等に回復の兆しがあり、景気は緩やかな持ち直しが見られるものの、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化や中東情勢の緊迫化等、世界経済の不確実性の高まりを受け、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

このような中、ITインフラ整備やDX等に対しては、民需、官需とも引き続き積極的な投資があり、慢性的なIT人材不足となっていることも相まって、当社の先端エンジニアリング事業においては売上高を増加させることができました。一方で、高いIT投資等の需要に応えるため、当社は積極的にエンジニアを採用したことに伴い売上原価が増加し、新卒を含む研修対象者の増加により売上総利益率は低下しました。販売費及び一般管理費は、エンジニアの採用増に伴い増加しました。営業外収益は、業界未経験者へ実施した教育研修に対する人材開発支援助成金収入に加え、顧客からの受取手数料により増加しました。

これらの結果、売上高は5,455,397千円（前年同期比15.2%増）、営業利益は265,197千円（前年同期比32.2%減）、経常利益は310,851千円（前年同期比25.2%減）、四半期純利益は203,070千円（前年同期比24.8%減）となりました。

当社は先端エンジニアリング事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(資産)

当第2四半期会計期間末の資産合計は、4,521,021千円となり、前事業年度末に比べ64,441千円減少いたしました。主な要因は、流動資産において、現金及び預金が88,699千円減少し、売掛金及び契約資産が16,647千円増加し、固定資産において、投資その他の資産が10,889千円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末の負債合計は、1,756,888千円となり、前事業年度末に比べ29,032千円増加いたしました。主な要因は、流動負債において、未払費用が90,245千円増加し、未払法人税等が53,410千円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末の純資産合計は、前事業年度末と比べ93,473千円減少し、2,764,133千円となりました。これは四半期純利益203,070千円の計上、剰余金の配当306,592千円の支出等によるものであります。

この結果、自己資本比率は61.1%（前事業年度末は62.3%）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前事業年度末と比べ88,699千円減少し、2,587,539千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、得られた資金は217,823千円(前年同四半期は237,988千円の増加)となりました。これは主に税引前四半期純利益310,851千円を計上したこと、法人税等の支払による支出172,097千円、未払費用の増加90,245千円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は10,130千円(前年同四半期は10,132千円の減少)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出5,308千円、無形固定資産の取得による支出4,858千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、使用した資金は296,392千円(前年同四半期は218,161千円の減少)となりました。これは主に配当金の支払による支出306,441千円によるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期累計期間において、当社が定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社が優先的に対処すべき事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,000,000
計	16,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2024年5月31日)	提出日現在 発行数(株) (2024年7月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,006,600	4,008,800	東京証券取引所 グロース市場	完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当社に おける標準となる株式であり ます。なお、単元株式数100株 であります。
計	4,006,600	4,008,800	-	-

(注) 提出日現在発行数には、2024年7月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年 月 日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2024年3月1日～ 2024年5月31日 (注) 1	6,600	4,006,600	1,689	21,689	1,689	1,689

(注) 1. 新株予約権(ストックオプション)の行使による増加です。

2. 2024年6月1日から2024年6月30日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が2,200株、資本金及び資本準備金がそれぞれ563千円増加しております。

(5) 【大株主の状況】

2024年5月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社ウェストリバー	神奈川県横浜市西区宮崎町58番地1	1,600,000	39.97
西川 三郎	神奈川県横浜市西区	620,700	15.50
PERSHING SECURITIES LTD CLIENT SAFE CUSTODY ASSET ACCOUNT (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	ROYAL LIVER BUILDING, PIER HEAD, LIVERPOOL, L3 1LL, ENGLAND (東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	153,400	3.83
松島 亮太	神奈川県横浜市西区	119,500	2.98
西川 優	神奈川県横浜市鶴見区	104,000	2.59
西川 明宏	神奈川県横浜市中区	104,000	2.59
西川 香代子	神奈川県横浜市西区	100,000	2.49
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番12号	56,400	1.40
BNP PARIBAS LONDON BRANCH FOR PRIME BROKERAGE CLEARANCE ACC FOR THIRD PARTY (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	10 HAREWOOD AVENUE LONDON NW1 6AA (東京都中央区日本橋3丁目11番1号)	48,000	1.19
J Pモルガン証券株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目7番3号 東京ビルディング	43,862	1.09
計		2,949,862	73.69

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2024年5月31日現在

区 分	株式数(株)	議決権の数(個)	内 容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,900		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。なお、単元株式数100株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,998,300	39,983	同上
単元未満株式	4,400		
発行済株式総数	4,006,600		
総株主の議決権		39,983	

(注) 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式1株が含まれております。

【自己株式等】

2024年5月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ジャパニクス株式会社	横浜市西区みなとみらい二 丁目2番1号横浜ランド マークタワー18F	3,900	-	3,900	0.1
計		3,900	-	3,900	0.1

(注) 上記の他、単元未満株式が1株あります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(2024年3月1日から2024年5月31日まで)及び第2四半期累計期間(2023年12月1日から2024年5月31日まで)に係る四半期財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

3 四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年11月30日)	当第2四半期会計期間 (2024年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,676,239	2,587,539
売掛金及び契約資産	1,390,450	1,407,098
電子記録債権	108,839	102,755
その他	51,807	51,331
貸倒引当金	90	-
流動資産合計	4,227,246	4,148,725
固定資産		
有形固定資産	60,776	61,516
無形固定資産	5,394	7,845
投資その他の資産	292,046	302,935
固定資産合計	358,216	372,296
資産合計	4,585,462	4,521,021
負債の部		
流動負債		
買掛金	13,178	23,804
未払費用	717,649	807,894
未払法人税等	171,892	118,481
賞与引当金	179,804	206,135
受注損失引当金	765	19,920
その他	432,446	368,533
流動負債合計	1,515,736	1,544,769
固定負債		
長期未払金	212,119	212,119
固定負債合計	212,119	212,119
負債合計	1,727,855	1,756,888
純資産の部		
株主資本		
資本金	20,000	21,689
資本剰余金	85,313	86,917
利益剰余金	2,761,099	2,657,577
自己株式	8,806	2,050
株主資本合計	2,857,606	2,764,133
純資産合計	2,857,606	2,764,133
負債純資産合計	4,585,462	4,521,021

(2) 【四半期損益計算書】

【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)
売上高	4,734,778	5,455,397
売上原価	3,518,565	4,126,757
売上総利益	1,216,212	1,328,639
販売費及び一般管理費	825,282	1,063,441
営業利益	390,929	265,197
営業外収益		
受取利息	13	32
受取手数料	3,123	22,023
助成金収入	19,892	22,489
その他	1,650	1,107
営業外収益合計	24,679	45,653
経常利益	415,609	310,851
税引前四半期純利益	415,609	310,851
法人税、住民税及び事業税	150,055	118,686
法人税等調整額	4,336	10,905
法人税等合計	145,719	107,781
四半期純利益	269,890	203,070

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	415,609	310,851
減価償却費	7,146	8,273
貸倒引当金の増減額(は減少)	150	90
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	221,761	-
賞与引当金の増減額(は減少)	19,642	26,330
受注損失引当金の増減額(は減少)	7,098	19,155
受取利息及び受取配当金	13	32
売上債権の増減額(は増加)	70,219	10,563
その他の流動資産の増減額(は増加)	15,611	841
仕入債務の増減額(は減少)	1,909	10,625
未払費用の増減額(は減少)	79,604	90,245
未払消費税等の増減額(は減少)	42,837	70,006
その他の流動負債の増減額(は減少)	335	5,942
長期未払金の増減額(は減少)	212,119	-
小計	388,381	389,889
利息及び配当金の受取額	13	32
法人税等の支払額	150,406	172,097
営業活動によるキャッシュ・フロー	237,988	217,823
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	288	5,308
無形固定資産の取得による支出	-	4,858
貸付金の回収による収入	300	300
その他投資の増加による支出	11,910	468
その他投資の減少による収入	1,766	204
投資活動によるキャッシュ・フロー	10,132	10,130
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	217,550	306,441
自己株式の取得による支出	209	88
リース債務の返済による支出	401	-
ストックオプションの行使による収入	-	10,137
財務活動によるキャッシュ・フロー	218,161	296,392
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	9,695	88,699
現金及び現金同等物の期首残高	2,361,556	2,676,239
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,371,251	2,587,539

【注記事項】

(四半期損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第 2 四半期累計期間 (自 2022年12月 1 日 至 2023年 5 月31日)	当第 2 四半期累計期間 (自 2023年12月 1 日 至 2024年 5 月31日)
給与手当	230,272 千円	266,908 千円
採用紹介料	182,434 千円	265,121 千円
賞与引当金繰入額	44,289 千円	52,809 千円
貸倒引当金繰入額	150 千円	90 千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第 2 四半期累計期間 (自 2022年12月 1 日 至 2023年 5 月31日)	当第 2 四半期累計期間 (自 2023年12月 1 日 至 2024年 5 月31日)
現金及び預金	2,371,251千円	2,587,539千円
現金及び現金同等物	2,371,251千円	2,587,539千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自2022年12月1日 至2023年5月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年2月24日 定時株主総会	普通株式	217,800	55.00	2022年11月30日	2023年2月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自2023年12月1日 至2024年5月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年2月22日 定時株主総会	普通株式	306,592	77.00	2023年11月30日	2024年2月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年7月8日 取締役会	普通株式	188,126	47.00	2024年5月31日	2024年8月2日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は先端エンジニアリング事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期累計期間(自2022年12月1日 至2023年5月31日)

区 分	金額(千円)
派遣	4,602,576
請負	110,731
人材紹介	21,470
顧客との契約から生じる収益	4,734,778
外部顧客への売上高	4,734,778

当第2四半期累計期間(自2023年12月1日 至2024年5月31日)

区 分	金額(千円)
派遣	5,313,623
請負	101,806
人材紹介	39,968
顧客との契約から生じる収益	5,455,397
外部顧客への売上高	5,455,397

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自2022年12月1日 至2023年5月31日)	当第2四半期累計期間 (自2023年12月1日 至2024年5月31日)
1株当たり四半期純利益	68円16銭	50円87銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	269,890	203,070
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益(千円)	269,890	203,070
普通株式の期中平均株式数(株)	3,959,939	3,992,264
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	66円83銭	50円20銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	78,407	52,763
(うち新株予約権(株))	(78,407)	(52,763)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式について、前事業年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

(自己株式の取得)

当社は、2024年7月8日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について決議いたしました。

(1) 自己株式の取得を行う理由

経営環境の変化に応じた機動的な資本政策を実行するため

(2) 取得に係る事項の内容

取得対象株式の種類	当社普通株式
取得し得る株式の総数	60,000株(上限) (発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合1.5%)
株式の取得価額の総額	100,000千円(上限)
取得期間	2024年7月9日~2024年8月30日
取得方法	東京証券取引所における市場買付

2 【その他】

第25期（2023年12月1日から2024年11月30日まで）中間配当については、2024年7月8日開催の取締役会において、2024年5月31日の最終株主名簿に記載または記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	188,126千円
1株当たりの金額	47円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2024年8月2日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年7月9日

ジャパニクス株式会社
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 本間 洋一 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吹上 剛 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているジャパニクス株式会社の2023年12月1日から2024年11月30日までの第25期事業年度の第2四半期会計期間（2024年3月1日から2024年5月31日まで）及び第2四半期累計期間（2023年12月1日から2024年5月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、ジャパニクス株式会社の2024年5月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。